

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	多文化共生教育を学校教育に活かす教材作成の研究
------	-------------------------

研究代表者

氏名 栗田伸子	所属 人文科学講座	職名 教授
------------	--------------	----------

研究分担者

氏名 川手 圭一	所属 人文科学講座	職名 教授
稲見 正浩	人文科学講座	教授
荻野文隆／若林恵	外国語・外国文化研究講座	教授／准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究は、本学の教養系を中心に長年にわたって蓄積されてきた多言語・多文化、あるいは多宗教の共生社会の実現を目指す研究と教育の成果に立ち、これを学校教育に有意義に生かすための方法を検討し、将来の教材作りにつなげることを目的とした。

具体的な課題と専門領域は、多文化・多宗教の共生社会の営みが最も興味深くみられたスペイン中世社会を事例として、その社会の共生の歴史を描くことを目指した。なぜなら、ヨーロッパ社会のなかでも特にスペイン中世社会は、キリスト教徒・イスラム教徒・ユダヤ教徒がさまざまな緊張の中にあってもつくり上げた共生社会だったからである。

作業としては、本学においてスペイン中世史研究に従事し、日本の中世史研究をリードした故林邦夫教授の膨大な研究成果を整理し、これをテーマ別にまとめることを行った。

ここでは、林教授の残した膨大な研究論文を、大きく(1)社会経済史関係 (2)政治史・宗教史・思想史関係 (3)再制服(レコンキスタ)・地方史関係に大別し、その内容を整理した。(1)では、16世紀における新大陸貿易とスペイン国家財政、13世紀のセビーリャにおける市域・周域・再植民の諸関係、牧羊者組合(メスタ)の設立過程、中世アンダルシアにおける大土地所有の形成、あるいはカスティーリャ王国における14世紀の危機的状況と黒死病・領主制の危機などが問題となった。(2)では、カスティーリャにおけるコンベルソ問題や異端審問制の成立過程、カトリック両王時代の対ナバーラ政策・教会政策といった諸政策、カスティーリャにおけるユダヤ人に関する地方史的研究の動向、マリアーナ／バルトロメ・カランサ／ルイス・デ・レオン／ドミンゴ・デ・ソートなどの残した思想、「ラ・グアルディアの聖なる子」事件をめぐる諸問題、サラマンカ大学、ペドロ1世時代の歴史などを整理した。続く(3)では、グラナダ王国の制服、またアンダルシア地方の諸都市：コルドバ、カディス、カルモナー、そしてとりわけトレードにおけるキリスト教徒、イスラム教徒、ユダヤ教徒の関係をめぐる諸問題を取り上げた。

こうしたスペイン中世史研究の成果を整理し、そこに描かれるキリスト教徒とイスラム教徒さらにはユダヤ教徒も加えた社会の緊張と共生の諸関係を明らかにできた。本報告は、最終的にはこれらを1冊の著書にまとめ、これを大学などで活用できるテキストとして出版することを目的としている。この完成は、年度をまたぐこととなったが、本年度の成果を活かし、その一刻も早い実現をめざすつもりである。

以上

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

『スペイン中世史研究の成果と課題 - 歴史にみる多文化共生社会-(仮)』として現在執筆中。
2015年度内に著書として出版予定。